

ユニセフT・NET通信

2012 SPRING

No.51

公益財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034

Email: se-jcu@unicef.or.jp ホームページ http://www.unicef.or.jp

募金口座▶郵便振替: 00190-5-31000 (公財)日本ユニセフ協会 (送金手数料免除 ※窓口振込のみ)

メディア・リテラシー教育の
大切さ

©UNICEF/NYHQ2006-0821/Noorani

パレスチナ難民のキャンプで開かれた学校で、コンピューターの授業に参加する女子生徒たち

日本では、ICT (Information Communication Technology=情報通信技術) インフラは、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域を除き、おおむね完了する見込みとなった、と総務省発行の「平成23年版情報通信白書」は発表しました。2001年の『ブロードバンド元年』から始まり、10年が経過した現在、日本はデジタル化による多くの恩恵を享受できるようになりました。しかし、そのメディアの持つ便利さなどの長所の裏側に、進んだメディアを利用することで起こる様々なリスクも指摘されています。情報化が進んだ今日の社会では、メディアを健全に活用するためのメディア・リテラシー教育が焦眉の急となっています。

情報通信技術を適正に活用するために

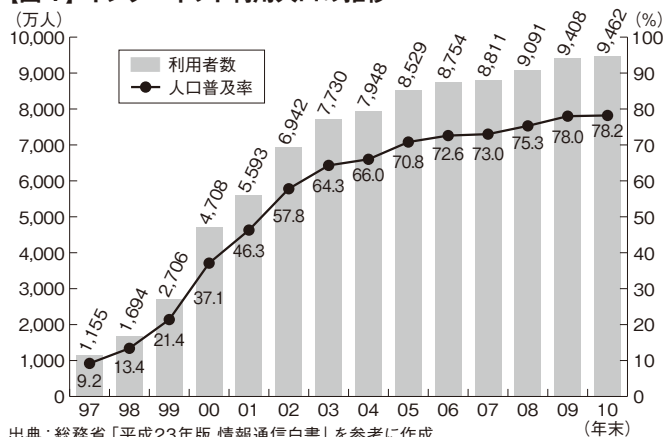
同白書では、日本では1993年にインターネットの商用サービスが開始され、【図1】が示すように、利用者数は1997年の1,155万人から、2010年の9,462万人と13年間で8.2倍に拡大した、とあります。デジタルテレビ、インターネット、Eメール、携帯電話 (スマートフォン)、フェイスブックなど情報の洪水の中で人間は生活をしていかなければならない状況なのです。

この情報通信技術の発達には私たちの生活に大きな便利さを与えてくれました。しかし、その一方で、子どもたちが情報に対してきちんと適応できるように育成がなされているのか不安の声も上がっています。(P.2 【図2-1】 【図2-2】 参照)

高度な情報社会においては、人々がメディアに触れる機会はますます多くなり、メディアを介して得られる情報の量はさらに増大していくと予想されます。こうした状況の中、メディア・リ

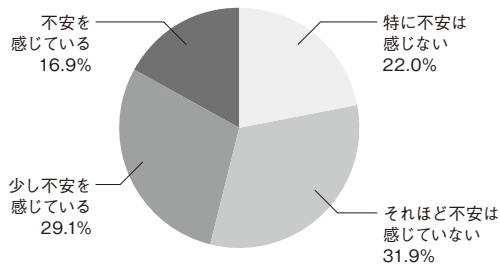
テラシー教育は不可欠なものです。メディア教育が認識されるようになったのは、1982年のユネスコによる「メディア教育に

【図1】 インターネット利用人口の推移



出典: 総務省「平成23年版 情報通信白書」を参考に作成

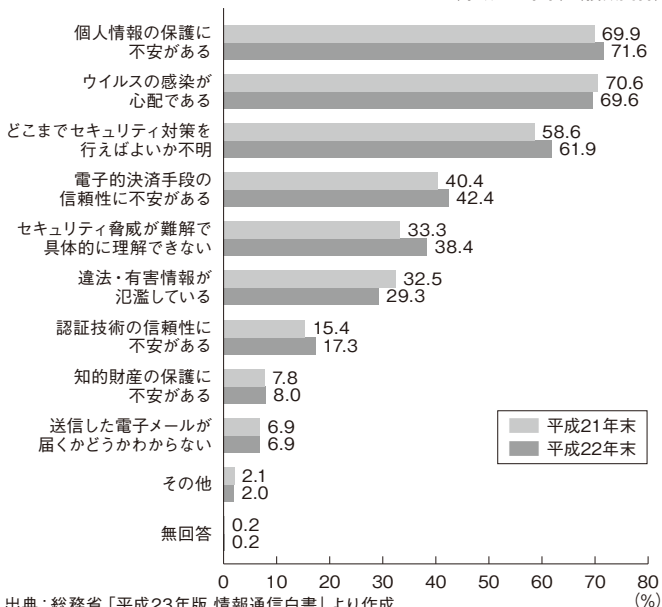
【図2-1】インターネット利用で感じる不安(世帯)(平成22年末)



出典：総務省「平成23年版 情報通信白書」より作成

【図2-2】インターネット利用で感じる不安の内容(世帯)

(平成22年末)(複数回答)



出典：総務省「平成23年版 情報通信白書」より作成

関する「グロバルト宣言」以降であるとされています。この宣言では、①メディアを批判的に見て、それに対抗できるような能力の育成 ②メディアそのものについての学習の必要性 ③自分自身をメディアを通して表現できることを謳っています。

それでは「メディア・リテラシー」とは何でしょうか。リテラシーとは言語の読み、書き、話す能力のことです。この言葉とメディアを合体させて作られた「メディア・リテラシー」は、テレビやインターネット等のメディアの読み書き能力、つまり、メディアからのメッセージを適切に理解すると共に、メディアを使って自らも発信できる能力のことを言います。

スマートフォンの普及が著しい、いわゆる高度情報通信社会になっている現在では、子どもたちにメディア・リテラシー教育

をできるだけ早急に行うことが必要です。情報通信技術は、両刃の剣で、適切に利用すれば非常に便利なものですが、使い方を間違えると人を傷つけてしまうような危険なものになってしまいます。小学生でもインターネットを使ってさまざまな情報を収集、発信することが当たり前になってきています。インターネットで世界とつながることで、個人情報、セキュリティの問題など多くの問題があります。メディア・リテラシー教育を行うことで、子どもたちは、これからの社会の中で情報通信技術を適切に活用し、マナーを守って暮らしていけるのです。

ユニセフのOne Minute Video事業

ユニセフは、高度情報通信社会の中で子どもが健全にされるための事業の一つとして、One Minute Video事業をThe European Cultural Foundation、The One Minutes Foundationと共に2002年に始めました。この事業は、1分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を超えて興味や意見、夢や希望を分かちあう機会になっています。ユニセフは現在、アフリカやアジア、中東をはじめ多くの国々でワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。

情報に翻弄されない子どもたち、若者達の育成においては、情報に対する単なる批判的な姿勢を育むだけではなく、その情報一つひとつの良し悪しを判断する能力育成が重要です。情報に適応するだけでなく、情報や意見の発信者として自分の考えを適切に伝えることができる子どもを育てられないと、世界の問題について一緒に解決することはできません。

日本ユニセフ協会も2010年よりOne Minute Video事業を始めました。日本の若者達はきちんと情報を選んでいるだろうか、どれ程世界で起きている出来事を知っているのだろうか、目を向けているのだろうか、責任を持った情報発信を学んでいるだろうかと考えたからです。

この度、日本ユニセフ協会では、メディア・リテラシーを促進する企画として、「第1回One Minute Videoコンテスト」を開催し、今年の8月3日に公開審査ならびに表彰式を行うことになりました。小学生から一般のアマチュアの方まで幅広い層にご参加いただける場としました。多くの方が奮って参加されることを期待しております。

*詳細は、P.8お知らせ「第1回日本ユニセフ協会 One Minute Video コンテストのご案内」をご覧ください。



ユニセフ、インターネット利用についての最新の報告書を発表

昨年12月にユニセフ・イノチェンティ研究所は、インターネットがもたらす便利さや楽しみの側面のみでなく、インターネットを利用する若者たちが直面するリスクへの理解を深めることを提示する目的で、「インターネット上の子どもの安全—グローバルな挑戦と戦略—」と題する報告書を発行しました。

以下のURLでこの報告書をダウンロードいただけます。ぜひご覧ください。

http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/pdf/Child_Safety_online-Jap_final.pdf